

令和4年度 授業改善推進プラン (課題分析と授業改善策)

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査では、「話すこと聞くこと」について、立場や意図を明確にして話し合い、考えをまとめることの正答率が低かった。 ・説明的文章について、文章全体の構成を把握したり、自分の考えをまとめたりしながら読むことに課題がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 話し合いの目的や方向性を検討したり、確認したりする場を設ける。話し合いの展開や内容を踏まえて、意見を整理する方法を身に付けさせる。自分と異なる意見を取り入れながら考えをまとめる表現の仕方を指導する。 ② 説明的文章の内容や構成に着目して読み、必要な情報を見付けたり文章から具体的に想像したりする活動に重点を置く。内容や説明の仕方よさに気付かせ、学んだことを活用して書く活動を行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地図やグラフ、年表等の扱いに慣れておらず、資料から様々な事象を読み取ることに課題がある。 ・客観的な事実に基づいて考えを組み立てていく力に課題がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ① ICTを活用し、様々な資料に触れさせ、分かることを見付けたり、視点を変えて資料を読んだりする活動を取り入れる。また、資料を活用し、必要な情報を調べ、まとめ、交流する活動を行う。 ② 自分の住む地域と比較したり、自身の生活とどのように結び付けていくかを考えさせたりすることを通して、思考・判断・表現力を育む。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルの結果から、前学年で理解していた内容を進級後に忘れてしまっているものがあつた。それらに共通しているのは、その後の学習の中で活用される機会の少ないもの(時刻と時間、図形の構成要素の名称、円の半径を利用した正三角形の作図など)である。また、単位換算、四捨五入、割合、図式化などは、その後の単元で活用する場面があつても正答率が低かつた。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 東京ベーシック診断テストの結果から明らかになった各学年の課題に関する練習プリントを行い、復習の時間を確保する。 ② 苦手分野と関連する単元を指導する際には、これまでの学習の復習を行うとともに、目の前の課題との関連性や共通点を子供自身が気付けるような指導を意図的に行う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査では、自然の事物・現象に働きかけ、そこから問題を見いだすことの正答率が低かつた。 ・問題解決のためにその実験や観察をするときのようなことが明らかになるのか、また、実験結果を根拠にして考察することに課題がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 問題解決学習の流れを組み立て、問題の発見能力を高める導入の工夫を行う。 ② 解決のための観察や実験の方法を考えさせ、一人一人が結果を基に考察する時間を確保し、自らの考えを表現させる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内の様子や学校生活を支えている人への気付きが少ない。体験活動は、意欲的に取り組むが、活動したことを実生活に生かしていくことに課題がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 校外学習や校内探検を充実させ、意識的に学校の内外の様子に関心をもたせ、自分の生活との関わりについて考えさせる機会を設定する。 ② 学習したことを日常生活に生かすような単元計画の工夫や計画的な掲示で学んだことを共有できる場を設定する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止のため、歌唱・器楽(鍵盤ハーモニカやリコーダー)の学習に制限があるため、技能の習得に個人差がある。 ・鑑賞の学習では、知覚と感受を結び付けて音楽のよさや面白さについて自分の言葉で表すことに課題がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業では音を出さずに運指の確認をする時間を十分にとり、練習は家庭学習とするなど学習方法の工夫をしていく。 ② 音楽の何を聴き取るのかを焦点化し、ねらいを設定していく。その上で児童が聴き取ったことと感じ取ったことを結び付けられるよう、板書や掲示物を工夫し、児童の言葉を引き出していけるようにする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・題材のテーマや材料と向き合い、よりよい表現を目指して活動することに課題がある。 ・今までに経験した表現方法を自分のイメージに合わせて活用して表すことに課題がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 児童が意欲的に表現追求をすることができるよう、材料に十分関わる時間を設定し、イメージを広げるきっかけになるようにする。 ② 経験した表現方法を振り返り、黒板にも掲示しておくことで、アイデアのヒントとなるようにする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の仕事、生活時間、調理、裁縫など、学んだことを実際の家庭生活の中に生かすことに結びつけることに課題がある。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 体験的な活動を取り入れると共に、映像資料なども活用して学習内容が児童の自分ごととなるような指導を行う。 ② 課題意識をもって学習をすすめられるよう、ワークシートの活用、児童同士の学び合いを大切にする。

<p>体育</p>	<p>・ねらいの達成や課題克服、より良い動き方の習得などのために、自ら考えて運動することに課題がある。</p>	<p>① 自分の役割や運動の仕方について考え、自ら運動を選択することができるようになるために、運動のコツの掲示物やワークシートを活用したり、考えを議論し共有する時間を設定したりする。</p>
<p>外国語</p>	<p>・発音に自信がなかったり、フレーズの定着が不十分だったりするため、コミュニケーションに消極的なことが課題である。</p>	<p>① ALTの発音を繰り返しよく聞かせて発音できるようにしたり、フレーズの発音練習をしたりする。外国語表現を使ったやり取りを行う時間を十分に確保し、フレーズに慣れ親しんだ上でアクティビティに入るようにする。</p> <p>② 英語の音に十分に慣れ親しみ、コミュニケーションの基礎となる英語表現を多く口にさせることで自然なやりとりができるようにする。</p>